

——近畿川崎病研究会——

運営委員長

尾内善四郎

運営委員

上村 茂	小川 實	大国 英和	荻野廣太郎
尾内善四郎	神谷 哲郎	北村惣一郎	清沢 伸幸
児嶋 茂男	佐野 哲也	四宮 敬介	鈴木 盛一
田村 時緒	内藤 泰顕	西岡 研哉	馬場 國蔵
伴 敏彦	広瀬 一	藤関 義樹	藤原 久義
槇野征一郎	松田 暉	安居 資司	山城 国暉
山本 隆	横山 達郎	吉林 宗夫	

顧問

川崎 富作 川島 康生 濱島 義博

事務局代表

神谷 哲郎

事務局

〒565 吹田市藤白台5-7-1

国立循環器病センター 小児科 鈴木淳子

TEL 06-833-5012

——出席者へのお知らせとお願い——

1. 参加者へ

- (1)研究会開始時間は午後2時です。
- (2)研究会参加費は年会費に含まれております。(年会費2,000円です)
なお、未入会の方は入会の程お願い致します。

2. 演題発表者へ

- (1)口演時間は特に制限をいたしません。が、討論を十分行ないたいと思
いますので、7～8分をめどにお願い致します。
- (2)スライドは35%版用とし、一面のみの使用とします。
- (3)スライドは会場入場の際「スライド受付」にご提出下さい。

3. 口演者へのお願い

口演内容はProgress in Medicine 7月号(ライフ・サイエンス・メ
ディカ)に掲載される予定ですので、次の要領にておまとめいただ
きたく存じます。

執筆要項：400字詰原稿用紙にて図表は別で8枚以内におまとめ下
さい。また、200字以内の英文抄録を付して下さい。

原稿締切：平成3年4月30日(後日、(株)ライフ・サイエンス・メデ
ィカよりあらためてご連絡致します)

問合せ先：(株)ライフ・サイエンス・メディカ 西尾敏己

東京都渋谷区渋谷1-5-2 須藤ビル

TEL 03(3407)8963

プログラム

座長 鈴木淳子（国立循環器病センター）

1400～14：25

1. 血小板数と平均血小板容積による川崎病冠動脈病変の早期予知について

滋賀医科大学 小児科

杉浦康夫(現 彦根中央病院)、服部政憲、藤関義樹、太田 茂、
島田司巳

長浜赤十字病院 小児科

近藤雅典、田中和彦

近江八幡市民病院 小児科

奥野昌彦、西川僚一

2. ガンマグロブリン大量療法にもかかわらず冠動脈瘤形成を認めた川崎病4症例の検討

関西医科大学 小児科

池田志麻子、佐々木照子、藤田明美、武部充子、辻美代子、
野木俊二、荻野廣太郎、小林陽之助

関西医科大学香里病院 小児科

竹岡和子

関西医科大学男山病院 小児科

西田直樹、太田 享、荻野伸子

座長 荻野廣太郎（関西医科大学）

14：25～15：05

3. 川崎病既往例の僧帽弁疾患

国立循環器病センター 小児科

新垣義夫、神谷哲郎、鈴木淳子、中島 徹、山田 修

4. 川崎病冠動脈障害児のジピリダモール負荷²⁰¹Tl心筋SPECT像

明和病院 小児科

児嶋茂男, 吉本智子, 位田 忍

はりま小児科

播磨良一

5. 川崎病冠動脈障害におけるACバイパス術前後の左室パフォーマンスの評価
— Tc-99m運動負荷心プールイメージングによる検討 —

国立循環器病センター 小児科

津幡眞一, 小野安生, 鈴木淳子, 木幡 遼, 中村 浩,

渡辺 健, 脇 千明, 神谷哲郎

座長 篠原 徹 (近畿大学 心臓小児科)

15:05~15:45

6. PTCR後に冠動脈バイパス手術を施行した川崎病巨大冠動脈瘤の1例

日本赤十字社医療センター 小児科

片岡 正, 与田仁志, 土屋恵司, 麻生誠二郎, 今田義夫,

藪部友良, 大川澄男

日本赤十字社医療センター 心臓血管外科

河野元嗣, 小銭健二, 清水 進

関東通信病院 心臓血管外科

竹内靖夫

7. 反復する巨大冠動脈瘤内血栓に対してウロキナーゼの経静脈性血栓
融解療法が有効であった1例

和歌山医科大学 小児科

吉岡美咲, 奥田修司, 堀江延和, 鈴木啓之, 飯塚忠史,

南 頼彰, 上村 茂, 小池通夫

8. 巨大冠動脈瘤内血栓の消退過程を追えた川崎病の1例

京都府立医科大学 小児疾患研究施設内科部門

大持 寛, 河村栄美子, 坂田耕一, 周藤文明, 城戸佐知子,
福持 裕, 早野尚志, 林 鐘声, 浜岡建城, 尾内善四郎

座長 神谷哲郎 (国立循環器センター)

15:45~16:15

最近の話題

【川崎病病因に関する一考察】

NTT九州病院 院長 古庄 卷史

16:15~16:45

【コーヒー・ブレイク】

座長 上村 茂 (和歌山県立医科大学)

16:45~17:10

9. 当科における巨大冠動脈瘤の予後

天理よろづ相談所病院 小児循環器科

三谷義英, 田村真通, 田村時緒

10. 冠動脈セグメント狭窄の分類とその臨床的意義

国立循環器病センター 小児科

鈴木淳子, 神谷哲郎, 小野安生, 黒江兼司

座長 四宮敬介 (済生会中津病院)

17:10~17:50

11. 冠動脈瘤に拡大性病変をみた川崎病の1例

京都府立医科大学 小児疾患研究施設内科部門

福持 裕, 周藤文明, 城戸佐知子, 坂田耕一, 大持 寛,
早野尚志, 林 鐘声, 浜岡建城, 尾内善四郎

12. 急性腎不全を来した腎実質性悪性リンパ腫で、解剖の結果川崎病様冠動脈瘤の発見された成人の1症例

京都大学 第三内科

藤原久義, 原田昌樹, 細川了平, 長谷川浩二, 武曾恵理

松森 昭, 河合忠一

京都大学 病理学

吉田治義, 杉山武敏

京都女子大学

藤原兌子

13. 川崎病児末梢血単球のTNF- α 、IL-1 β 産生能について
— in vitroでの免疫グロブリン、 γ -インターフェロンの影響 —

和歌山県立医科大学 小児科

鈴木啓之, 飯塚忠史, 南 頼彰, 上村 茂, 小池通夫

座長 尾内善四郎 (京都府立医科大学)

17:50~18:50

特別講演

【川崎病とサイトカイン】

京都府立医科大学 微生物学 今西 二郎

生体の防衛構想
Self Defense Initiative(SDI)

Venilon®

(効能・効果)

1. 低または無ガンマグロブリン血症。
 2. 重症感染症における抗生物質との併用。
 3. 特発性血小板減少性紫斑病。
(他剤が無効で著明な出血傾向があり、外科的処置又は出産等一時的止血管理を必要とする場合)
- ※4. 川崎病の急性期。
(重症であり、冠動脈障害の発生の危険がある場合)

川崎病の急性期治療に
効能・効果追加!!

(重症であり、冠動脈障害の発生の危険がある場合)



静注用人免疫グロブリン製剤

ベニロン®

〈乾燥スルホ化人免疫グロブリン〉(指)
■健保適用

●用法・用量

本剤は、添付の日局注射用蒸留水(500mg製剤では10ml、1,000mg製剤では20ml、2,500mg製剤では50ml)に溶解して点滴静注するか、又は徐々に直接静注する。

低又は無ガンマグロブリン血症、重症感染症における抗生物質との併用に用いる場合は、通常、成人に対しては、1回にスルホ化人免疫グロブリンG 2,500mg(50ml)1~2本を、小児に対しては、1回にスルホ化人免疫グロブリンG 50~150mg(1~3ml)/kg体重を投与する。なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

特発性血小板減少性紫斑病に用いる場合は、通常、1日にスルホ化人免疫グロブリンG 200~400mg(4~8ml)/kg体重を投与する。なお、5日間投与しても症状の改善が認められない場合は以降の投与を中止すること。年齢及び症状に応じて適宜増減する。

※川崎病に用いる場合は、通常、1日にスルホ化人免疫グロブリンGを200mg(4ml)/kg体重を5日間投与する。なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

●使用上の注意

1. 一般的注意

- (1) 間隔をおいた輸注によりアナフィラキシー様症状を起こすことがあるので、観察を十分行うこと。
- (2) 本剤による特発性血小板減少性紫斑病の治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- (3) 小児の急性特発性血小板減少性紫斑病は多くの場合、自然寛解するものであることを考慮すること。
- (4) 本剤は抗A及び抗B血液型抗体を有する。したがって、血液型がO型以外の患者に大量投与したとき、まれに溶血性貧血を起こすことがある。

※(5) 川崎病に用いる場合は、発病後7日以内に投与を開始することが望ましい。

2. 次の患者には慎重に投与すること

IgA欠損症の患者

3. 副作用

- (1) ショック：まれにショック症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、悪寒、戦慄、呼吸困難、頻脈、不安感、胸内苦悶、血圧低下等の症状があらわれた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。
- (2) 過敏症：ときに発熱、頭痛、発疹、まれに熱感、蕁麻疹、痒痒感、悪心・嘔吐、局所性浮腫等の症状があらわれることがある。

4. 臨床検査値への影響

本剤には各種感染症の病原体またはその産生物質に対する免疫抗体が含まれており、投与後の血中にこれら免疫抗体が一時的に検出されることがあるので、臨床診断には注意を要する。

●その他の「使用上の注意」等については
製剤添付文書をご参照ください。

※1990.10.改訂

販売

フジサワ
大阪市中央区道修町3-4-7〒541

総発売元・販売

TEIJIN テイジン
医薬事業本部 東京都千代田区内幸町2丁目1-1〒100

製造元・販売

化血研
熊本市清水町大塚668 〒860

資料請求先：藤沢薬品工業(株)医薬事業本部
帝人株式会社医薬事業本部
化学及血清療法研究所営業部

W.R.B51